

平成25年度第1回野菜需給協議会の概要

独立行政法人農畜産業振興機構

昨日、生産者、流通業者、消費者等野菜の関係者が一堂に会する平成25年度第1回野菜需給協議会が開催され（7月18日（木）13:30～15:30、（独）農畜産業振興機構会議室）、「夏秋野菜は、府県産の在庫が潤沢で、概ね前年を下回る価格となるたまねぎを除き、安値であった前年を上回るか、又は前年並みの価格で推移する見込み」であることを確認しました。概要は下記のとおりです。

記

1 平成25年産夏秋野菜の需給・価格の見通しについて

- 野菜需給・価格情報委員会（平成25年7月12日開催）においてとりまとめられた「平成25年産夏秋野菜の需給・価格の見通し」について説明があり、質疑が行われた（具体的には別紙参照）。

【ポイント】

- **夏秋キャベツ**は、9月までは前年並みの出荷となり、10月は前年をかなり下回る出荷となると見込まれることから、価格は、期間を通して、安値だった前年を上回る見込み。
- **夏だいこん**は、一部の産地で低温・干ばつ等の影響から生育の遅れが見られることから、7月の価格は、前年を上回る見込み。8月及び9月は、前年並みの出荷が見込まれることから、価格は、前年並みの見込み。
- **たまねぎ**は、府県産の在庫が潤沢であることから、価格は、9月までは前年を下回り、10月は前年並みの見込み。
- **秋にんじん**は、一部の産地で低温・干ばつの影響から生育の遅れが見られることから、8月の価格は、前年を上回る見込み。9月及び10月は、前年並みの出荷が見込まれることから、価格は、前年並みの見込み。
- **夏はくさい**は、消費が減少する時期となる中で出荷を9月にシフトしたことから、価格は、7月及び8月は前年を上回り、9月は安値だった前年並みの見込み。
- **夏秋レタス**は、一部の産地で高温の影響から出荷量の伸び悩みが見られることから、7月から9月までは前年を上回り、10月は前年並みの見込み。

2 野菜の消費拡大活動等について

- 協議会の取組みとして、「野菜の日」（8月31日）の前日の8月30日（金）にイノカンファレンスセンターで、「野菜シンポジウム」を開催することとした。
- 全国青果物商業協同組合連合会、全国農業協同組合連合会及び農林水産省より、野菜の消費拡大の取組みの予定について説明があった。
- 日本スープ協会より、協会の概要と最近の取組みについて説明があった。

【参 考】 配布資料等については、ホームページで公表いたします。

【問い合わせ先】

(独)農畜産業振興機構

野菜需給部 需給推進課

前川、平野、小峯、平川

電話番号：03-3583-9478

○平成25年産夏秋野菜の需給・価格の見通しについて

夏秋キャベツ（7～10月）

（別紙）

主産地の動向等

（主な産地：群馬、長野、北海道）

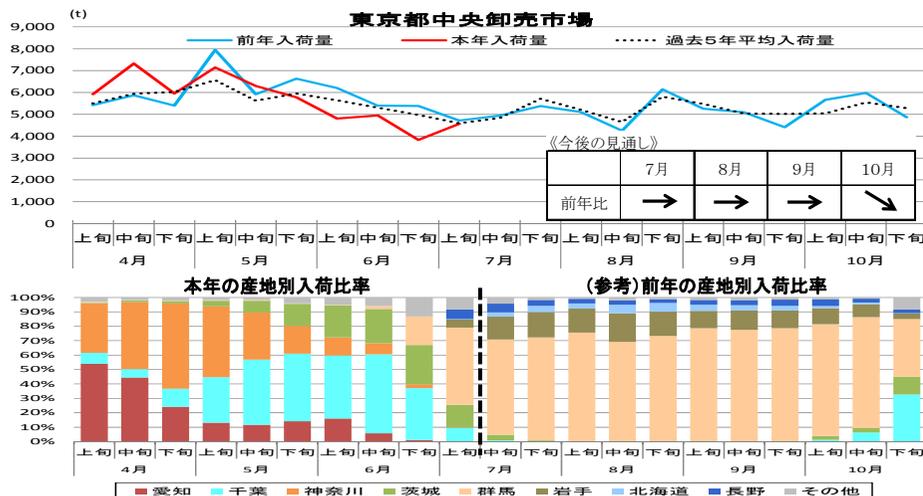
1 作付面積は、群馬は前年比97%、長野は同101%、北海道同90%。

生育状況は、群馬は、低温・乾燥の影響で生育初期に遅れが見られ、5月以降回復したが、前年に比べ小玉傾向。6月下旬の連日の降雨により、一時、定植作業の停滞が見られたものの、全体的な進捗状況は平年並みで、生育は順調。長野は、干ばつの影響を受け、7月上旬まで小玉傾向、中旬以降は回復傾向に転じ、平年並みとなる見込み。北海道は、融雪遅れ・低温等により定植作業が遅れた地区が多く、さらに干ばつの影響もあり、生育遅れや停滞が見られたが、その後の天候回復により、遅れを取り戻している状況にある。

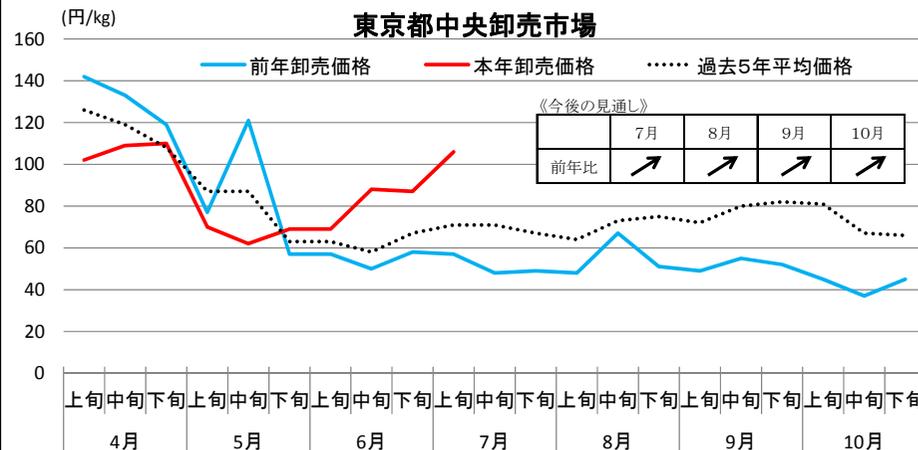
出荷開始は、群馬及び長野は6月中旬、北海道は6月下旬。

2 この先1か月の気象予報（関東甲信地方）は、平均気温は平年より高く、降水量は平年並み、日照時間は平年より多くなる見込み。

入荷量の推移等



価格の推移等



野菜需給・価格情報委員会での需給・価格の見通し

1 供給見通し

作付面積は、群馬は前年をやや下回り、長野は前年並み、北海道は前年をかなり下回る見込み。

生育状況は、低温・干ばつの影響で生育等の遅れが見られたものの、その後、生育は回復傾向となり、現在の生育は順調。

出荷量は、9月までは前年並み、10月は前年をかなり下回り、期間全体で前年並みで、平年をやや上回る見込み。

2 需要・価格見通し

加工・業務用においては在庫が少ないことに加え、小玉傾向のため加工歩留まりが悪いことから、需要増が見込まれる。そうした中、加工業者等が契約数量を減らしており、市場調達が上がる可能性がある。

カット野菜での使用頻度が上がっている中で、カット野菜用の品種の産地形成が課題となっている。

価格は、期間を通して、安値だった前年を上回る見込み。

夏だいこん（7～9月）

主産地の動向等

（主な産地：北海道、青森、岐阜）

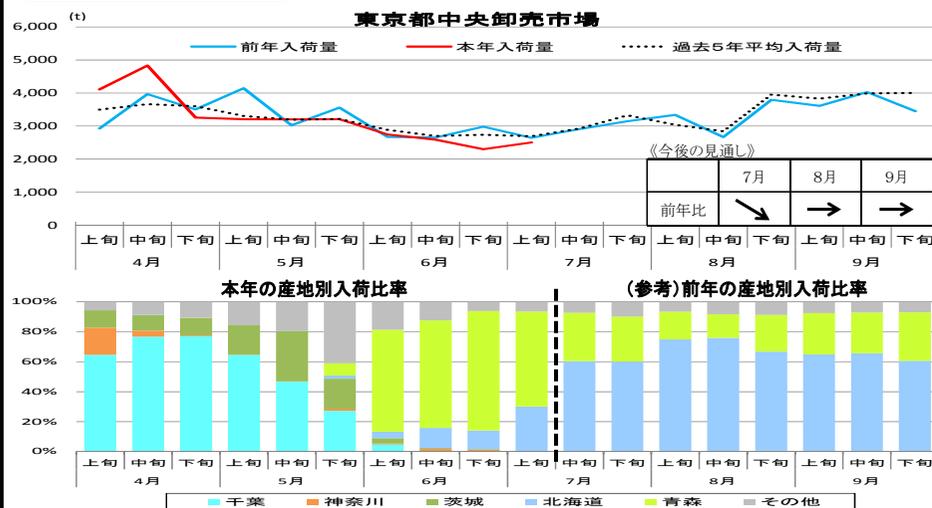
1 作付面積は、北海道は前年比97%、青森及び岐阜は同100%。

生育状況は、北海道は、融雪遅れ・低温等により播種が遅れ、さらに干ばつの影響もあり生育が遅れており、その後の好天・降雨により回復基調にあるものの、平年より1週間程度の遅れとなっている。青森は、低温により播種作業は5日程度遅れたが、その後は比較的好天に恵まれ、発芽・生育は回復傾向。岐阜は、5月の低温で播種遅れとなったが、その後の好天により回復し、平年並みの生育となっている。

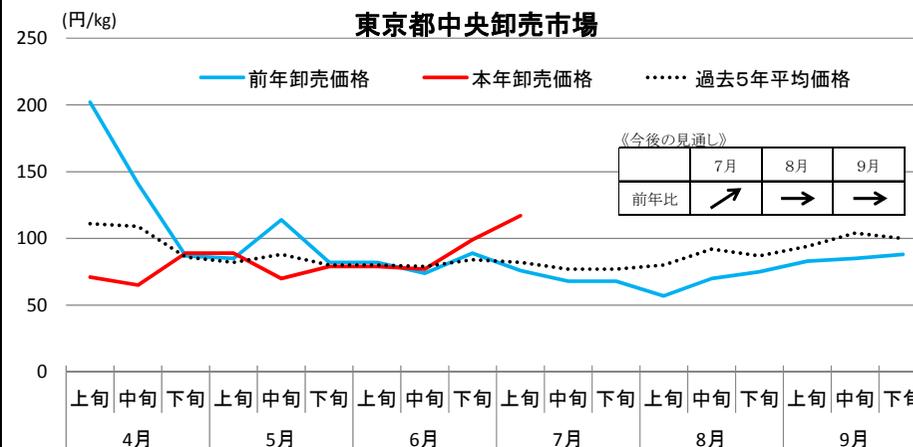
出荷開始は、北海道は6月下旬、青森は7月上旬、岐阜は6月中旬。

2 この先1か月の気象予報（北海道地方）は、平均気温は平年より高く、降水量は平年より多く、日照時間は平年より少なくなる見込み。

入荷量の推移等



価格の推移等



野菜需給・価格情報委員会での需給・価格の見通し

1 供給見通し

作付面積は、北海道は近年の価格低迷から前年をやや下回り、青森及び岐阜は前年並みの見込み。

生育状況は、北海道は、低温・干ばつ等の影響から遅れていた生育が回復基調となったものの、平年よりも1週間程度の遅れが見られる。青森及び岐阜は、低温による播種の遅れがあったものの、その後の好天により、平年並みの生育となっている。

出荷量は、7月は前年をやや下回り、8月以降は前年並みとなり、期間全体では前年及び平年並みになる見込み。

2 需要・価格見通し

需要が減少しているため、需要拡大のために新たなレシピの提案が必要となっている。

加工・業務用においては、サラダ向けの切りだいこんの利用が増加している。

作付面積が減少し、干ばつで生育が遅れており、契約取引がしづらい状況となっていることから、市場調達が増える可能性がある。また、夏場の高温障害に注視が必要と考えられる。

価格は、7月は前年を上回り、8月及び9月は前年並みになる見込み。

たまねぎ（7～10月）

主産地の動向等

（主な産地：北海道、佐賀、兵庫）

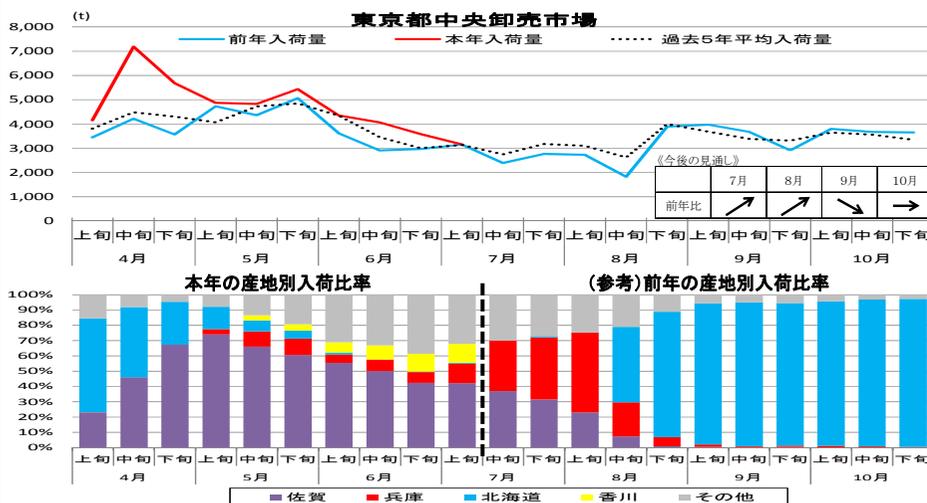
1 作付面積は、北海道は前年比100%、佐賀は同101%、兵庫は同100%。

生育状況は、北海道は、融雪遅れ・降雨・低温が重なり圃場乾燥が進まず、全道的に平年より1～2週間程度の定植遅れとなった。定植後、干ばつの影響により、活着・生育が進まなかったが、6月中旬以降の降雨で回復傾向にある。生育は、圃場・地区間で格差は見られるが、1週間程度の遅れである。佐賀は、12月に降雨が多かったため定植遅れが見られたが、活着はスムーズで、生育は平年並みとなっている。兵庫は、中生は肥大期に降水量が少なくやや小玉傾向で推移し、晩生は中生同様だが、近日の降雨により若干の玉肥大が見込まれる。

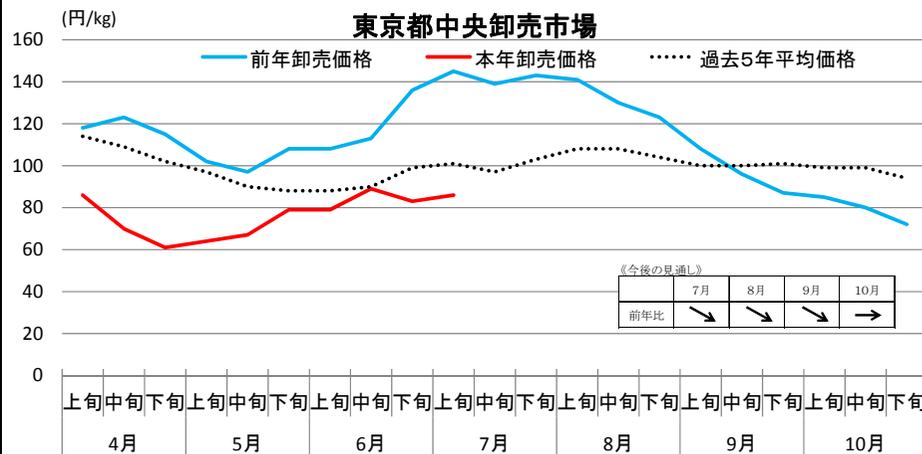
出荷開始は、北海道は8月下旬、佐賀及び兵庫は6月上旬。

2 この先1か月の気象予報(北海道地方)は、平均気温は平年より高く、降水量は平年より多く、日照時間は平年より少なくなる見込み。

入荷量の推移等



価格の推移等



野菜需給・価格情報委員会での需給・価格の見通し

1 供給見通し

作付面積は、北海道、佐賀、兵庫ともに前年並みの見込み。

生育状況は、北海道は降雨・低温により定植の遅れがあったが、その後の生育は、1週間程度の遅れが見られるものの回復が見込まれる。

出荷量は、府県産の在庫が潤沢であることから、7月及び8月は前年を上回り、9月は前年を下回り、10月は前年並みとなり、期間全体では前年をやや上回り、平年をかなり上回る見込み。

2 需要・価格見通し

加工・業務用については、中国産(山東省)が豊作となり、安値での輸出が可能となっていることから、国産に回帰していたものが、再度中国産に回帰することが見込まれる。

価格は、9月までは前年を下回り、10月は前年並みの見込み。

秋にんじん（8～10月）

主産地の動向等

（主な産地：北海道、青森）

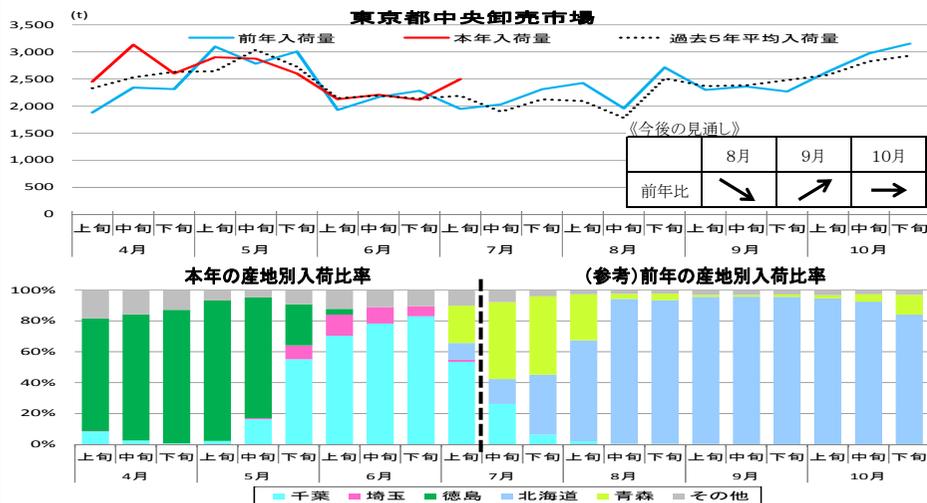
1 作付面積は、北海道は前年比96%、青森は同100%。

生育状況は、北海道は、融雪遅れ・低温の影響により播種が遅れ、その後一部地域で干ばつの影響があり、総じて1週間程度の遅れとなっている。青森は、春まきは低温により播種作業は5日程度遅れた。その後の好天により発芽・生育は順調だが、干ばつによる肥大遅れが懸念される。夏まきは好天により播種作業が順調に進んでいるため、平年並みの出荷となる見込み。

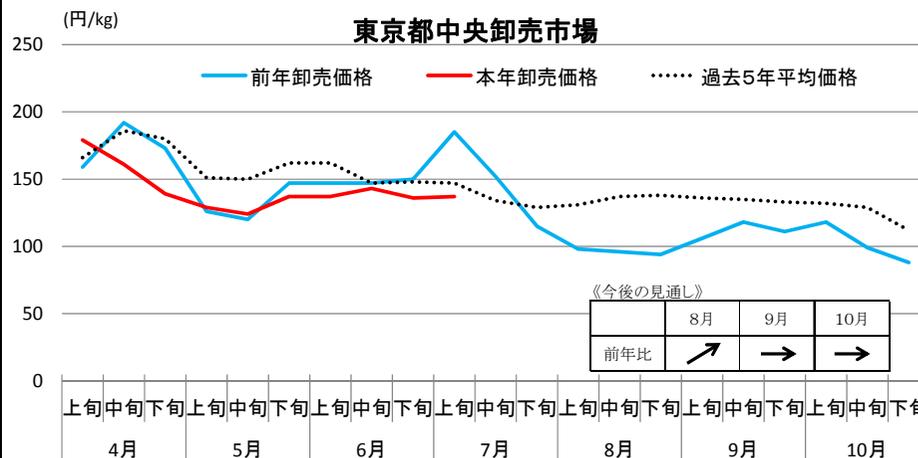
出荷開始は、北海道は7月下旬、青森は7月上旬。

2 この先1か月の気象予報（北海道地方）は、平均気温は平年より高く、降水量は平年より多く、日照時間は平年より少なくなる見込み。

入荷量の推移等



価格の推移等



野菜需給・価格情報委員会での需給・価格の見通し

1 供給見通し

作付面積は、北海道は前年をやや下回り、青森は前年並みの見込み。

生育状況は、北海道は、低温・干ばつの影響があり、1週間程度の遅れが見られ、青森は、低温による播種の遅れがあったが、その後の好天により平年並みとなる見込み。

出荷量は、8月は前年をやや下回り、9月は前年をかなり上回り、10月は前年並みとなり、期間全体では前年並みで、平年をかなり上回る見込み。

2 需要・価格見通し

他の食材と一緒に提供されることが多いため、新たなメニュー提案が必要となっている。

加工・業務用では、歩留まりの良い中国産に対する一定の需要が見込まれる。

価格は、8月は前年を上回り、9月及び10月は前年並みの見込み。

夏はくさい（7～9月）

主産地の動向等

（主な産地：長野、北海道、群馬）

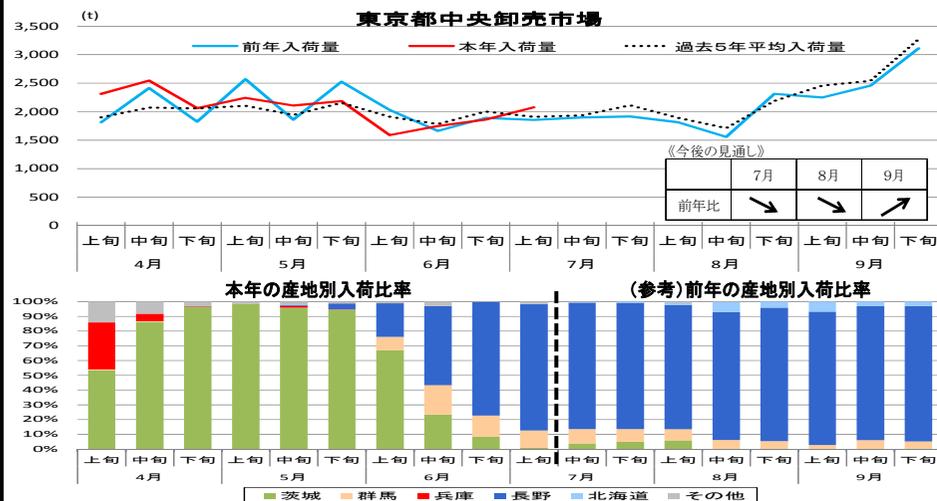
1 作付面積は、長野は前年比96%、北海道は同93%、群馬は同100%。

生育状況は、長野は、干ばつの影響で生育が遅れていたものの、降雨により回復基調にあるが、7月4日以降の高温の影響が少し見え始めている。北海道は、融雪遅れ・低温の影響により播種が遅れ、その後一部地域で干ばつの影響による生育遅れが見られていたが、天候回復により、やや遅れを取り戻している状況にある。しかし、依然として干ばつ傾向で遅れている産地もある。群馬は、4月下旬～5月上旬の降雪・低温により生育はやや遅れ気味だったが、その後の好天により回復している。玉伸びも良く生育順調。

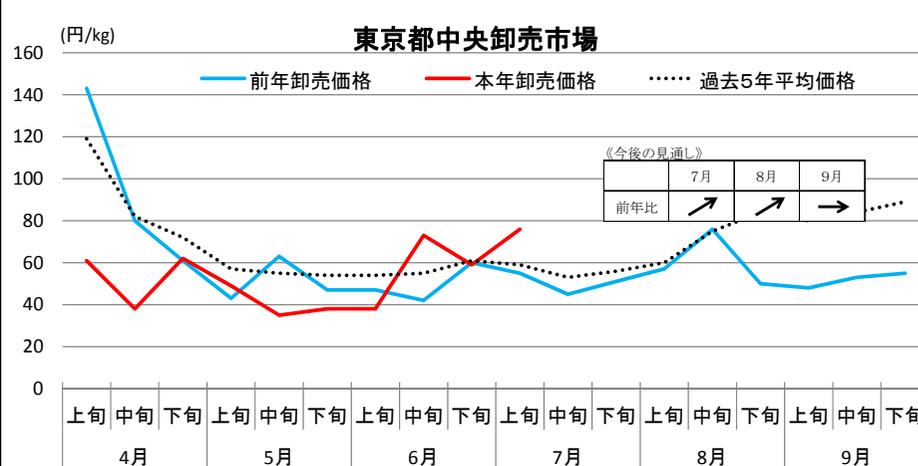
出荷開始は、長野及び群馬は5月下旬、北海道は7月上旬。

2 この先1か月の気象予報（関東甲信地方）は、平均気温は平年より高く、降水量は平年並み、日照時間は平年より多くなる見込み。

入荷量の推移等



価格の推移等



野菜需給・価格情報委員会での需給・価格の見通し

1 供給見通し

作付面積は、長野は前年をやや下回り、北海道は前年をかなり下回り、群馬は平年並みの見込み。

生育状況は、長野は、干ばつによる生育の遅れが見られたものの回復基調となる中で、最近の高温の影響が出始めている。北海道は、低温・干ばつの影響による生育の遅れが見られたが、好天により回復傾向となっている。群馬は、降雪・低温の影響による生育の遅れが見られたが、好天により生育が順調となった。

出荷量は、7月及び8月分を9月にシフトしたことから、7月は前年をかなり下回り、8月は前年をやや下回り、9月は前年をかなり上回り、期間全体では前年及び平年並みとなる見込み。

2 需要・価格見通し

家庭での需要が少ないため、外食事業者に対して、はくさいを使用したサラダのメニュー提案をしている。

はくさいの需要が減少している中で、依然としてO157の影響が残っているほか、加工・業務用の契約数量も減少している。

価格は、7月及び8月は前年を上回り、9月は安値だった前年並みの見込み。

夏秋レタス（6～10月）

主産地の動向等

（主な産地：長野、群馬、茨城）

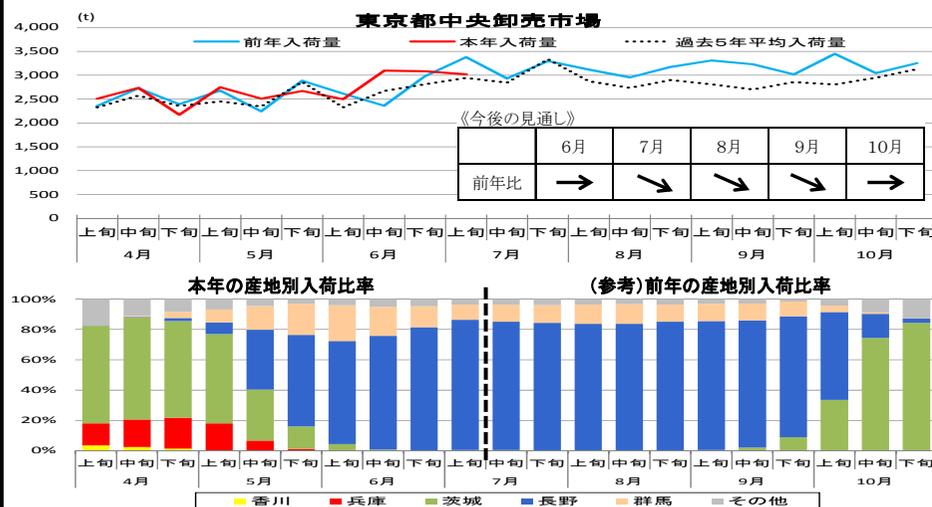
1 作付面積は、長野は前年比105%、群馬は同99%、茨城は同100%。

生育状況は、長野は、干ばつの影響で高冷地ものが遅れていたが、6月上旬以降の降雨により大玉となり増加傾向となった。現在、7月4日以降の高温により、出荷量が伸び悩んでいる。群馬は、4月は生育遅れとなったが、5月中旬以降は回復基調にある。作柄は比較的良好。茨城は、播種開始は8月上旬から始まり、まとまった出荷は10月以降となる。

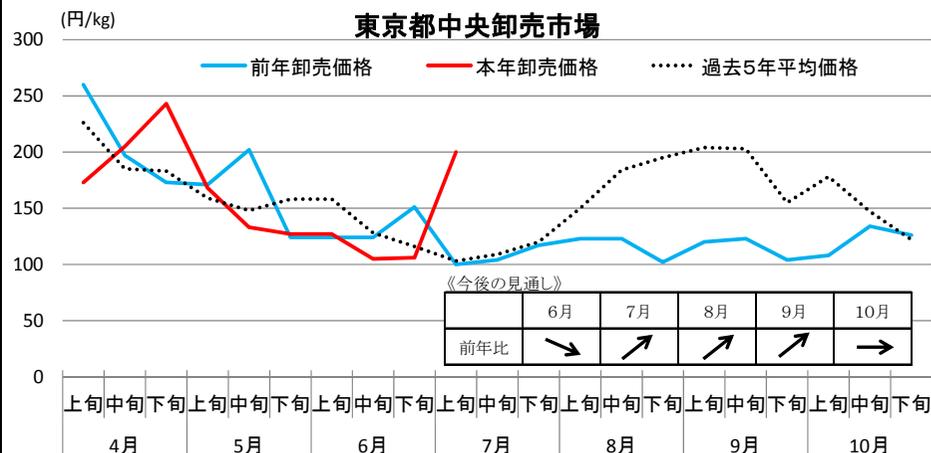
出荷開始は、長野は6月中旬、群馬は4月中旬、茨城は10月上旬。

2 この先1か月の気象予報（関東甲信地方）は、平均気温は平年より高く、降水量は平年並み、日照時間は平年より多くなる見込み。

入荷量の推移等



価格の推移等



野菜需給・価格情報委員会での需給・価格の見通し

1 供給見通し

作付面積は、長野は前年をやや上回り、群馬及び茨城は前年並みの見込み。

生育状況は、長野は、干ばつの影響による生育の遅れがあったが、その後の降雨により増加傾向となったものの、最近の高温による影響から出荷量の伸び悩みが見られる。群馬は、生育の遅れが見られたものの、作柄は良好となっている。

出荷量は、7月から9月までは前年をやや下回り、10月は前年並みで、期間全体では前年並みで、平年をやや上回る見込み。

2 需要・価格見通し

家計消費では、高値のため販売しにくい一方、加工・業務用では、サラダうどん等の需要が増加している。

加工・業務用向けに安定した出荷が困難なため、一部の実需者において、契約産地を一時的に休ませるための輸入を検討中。

価格は、7月から9月までは供給が減少するため前年を上回り、10月は前年並みの見込み。

その他、夏秋野菜全体の消費の動向等

① 夏先以降の消費を左右する要因、注目している要因

- 昨年は高温の影響により根菜類の消費が伸びなかったため、今後の天候を注視している。
- 加工・業務用において、商品の単価が決まっている中で、包材等の価格が高騰している影響を受け、野菜の販売価格等にしわ寄せがくる恐れがある。
- 加工・業務用における品質基準・規格が年々厳しくなっている。

② 主要6品目以外の野菜で、販売戦略として特に注目している品目の動向

- トマトは、産地・品種・色等がバラエティに富んでおり、消費者にアピールしやすく、注目している。味や機能性を前面に出して販売していきたい。
- スナップエンドウは、全体の販売量は少ないが需要があり、販売量が拡大する可能性がある。
- 加工・業務用では、アボカドやズッキーニ等の汎用性の高い野菜が伸びている。
- 九条ねぎは、京野菜のイメージを生かし、居酒屋での需要が伸びている。
- コンビニや外食では、「地場野菜・地域野菜」に力を入れている。

③ 冷凍野菜やカット野菜の動向

- スチーム野菜（カットして蒸気で加熱した野菜）に注目しているが、現状では生のカット野菜と比較してボリューム感がなく、販売単価が高いことが課題となっている。
- 外食チェーンでは、プロの料理人がいないことから、包丁を使用しなくてすむカット野菜の需要が伸びている。
- カット野菜は、特にシニア層の需要が伸びているので、シニア層向けの商品開発を進めたい。
- 冷凍野菜は、輸入品が多い中で、品質の良い冷凍野菜を製造する国内の冷凍野菜産業を育成することが重要である。

④ 輸入野菜（生鮮野菜及び冷凍野菜）の動向

- 中国産たまねぎは、作柄だけではなく、人件費の上昇や中国企業の販売戦略の影響もあり、価格が高止まりしている。
- 円安等で輸入が減少している中で、コールスロー用のキャベツと剥きたまねぎ（皮を剥き芯をくりぬいた状態）については、輸入品に対する一定の需要がある。